

2007年3月期  
第3四半期説明会

2007年2月8日  
ヤマハ株式会社

# 2007/3期 3Q決算の概要



## <3Qの状況>

- 3Qは、対前回予想減収増益、対前年同期増収増益
- 売上高は、リビングが好調を継続したほか、本格生産に入った自動車用内装部品、受注好調な携帯電話用Mg部品等が予想を上回る売上高となったが、主力の楽器、AVが期待を下回り、全体では、中間決算発表時(10/31)の予想に対し、1.3%の減収となった
- 一方、対前年同期では、ユーロ高効果や設備音響機器、管楽器の売上増に伴い楽器が増収となったことに加え、部品等が伸長し全体では1.9%の増収となった
- 営業利益は、楽器が対前回予想、前年同期増益

## <1~3Qの状況>

- 4~12月の3四半期累計では、為替効果もあり、対前年同期増収増益。楽器が対前年同期増収増益。電子機器・金属は、半導体の減収と売上総利益率の低下により、大幅減益
- 為替影響を除いた3Q末在庫は、前年同期水準以下だが、前回予想に対しては増加

# 2007/3期 3Q業績概要



➤ 対前年同期増収増益、対前回予想では減収増益

(億円)

	06/3 (3Q) 実績	07/3 (3Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (06/10/31)	前回予想比
売上高	1,492	1,520	+ 1.9%	1,540	▲1.3%
営業利益 (営業利益率)	115	130 (8.6%)	+ 13.9%	112	+ 17.0%
経常利益 (経常利益率)	142	155 (10.2%)	+ 9.9%	131	+ 19.1%
当期利益 (当期利益率)	109	125 (8.2%)	+ 13.8%	90	+ 37.8%

持分法損益

39

36

34

為替レート

売上高

US\$

117

118

115

EUR

139

152

141

利益

US\$

116

117

115

EUR

135

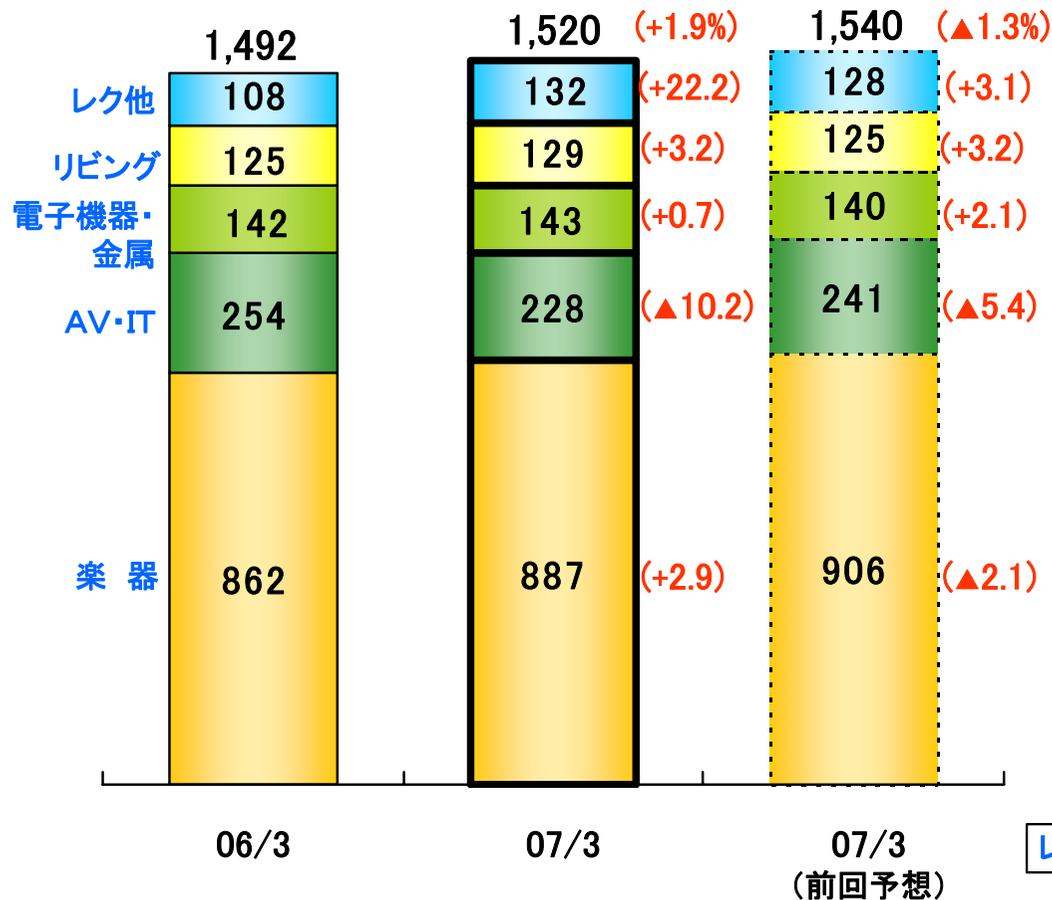
146

141

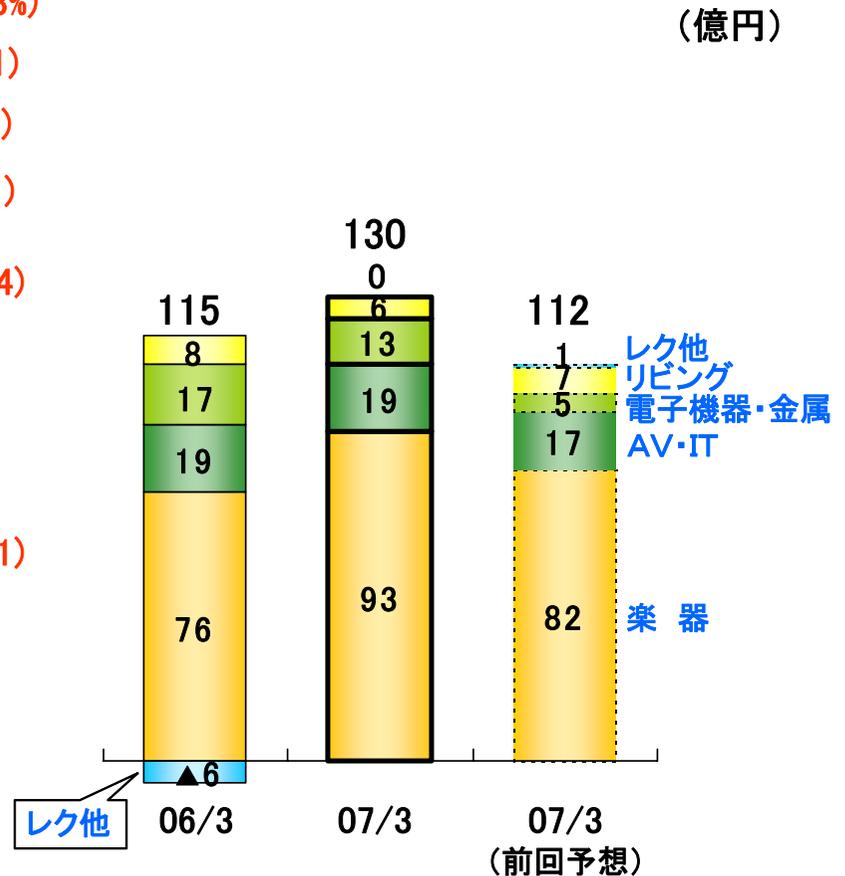
# 2007/3期 3Q事業別業績



## 売上高



## 営業利益



( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は+37億円  
(楽器+27億円、AV・IT+10億円)  
また、前回予想との比較では+41億円  
(楽器+31億円、AV・IT+10億円)

前年同期との比較での為替影響は+17億円  
(楽器+13億円、AV・IT+4億円)  
また、前回予想との比較では+9億円  
(楽器+8億円、AV・IT+1億円)

# 2007/3期 4Q業績予想



## ➤4Qは前回予想減収営業減益の計画

(億円)

	06/3 (4Q) 実績	07/3 (4Q) 予想	前年 同期比	前回予想 (06/10/31)	前回予想比
売上高	1,277	1,260	▲ 1.3%	1,275	▲ 1.2%
営業利益 (営業利益率)	▲ 17	▲ 9	-	0	-
経常利益 (経常利益率)	▲ 3	25	-	20	-
当期利益 (当期利益率)	7	6	▲ 14.3%	15	▲ 60.0%

持分法損益

24

40

37

為替レート

売上高

US\$  
EUR

117  
141

115  
148

115  
141

利益

US\$  
EUR

117  
138

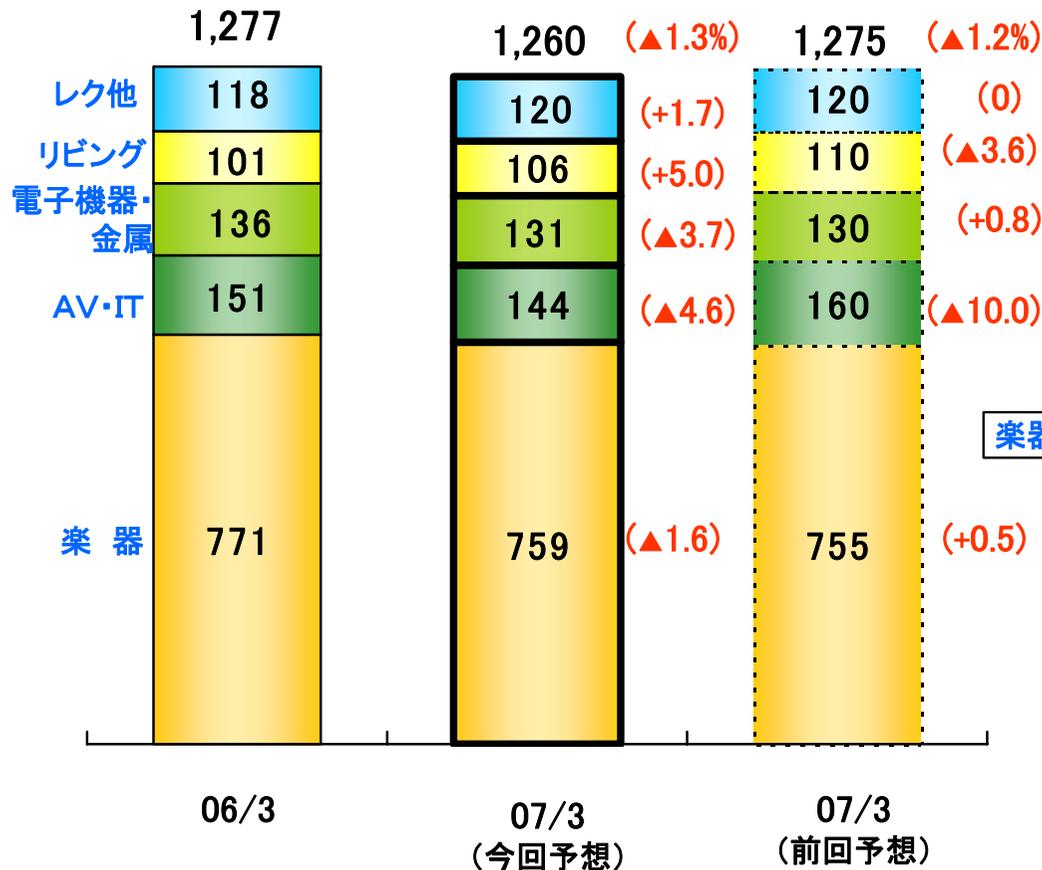
115  
148

115  
141

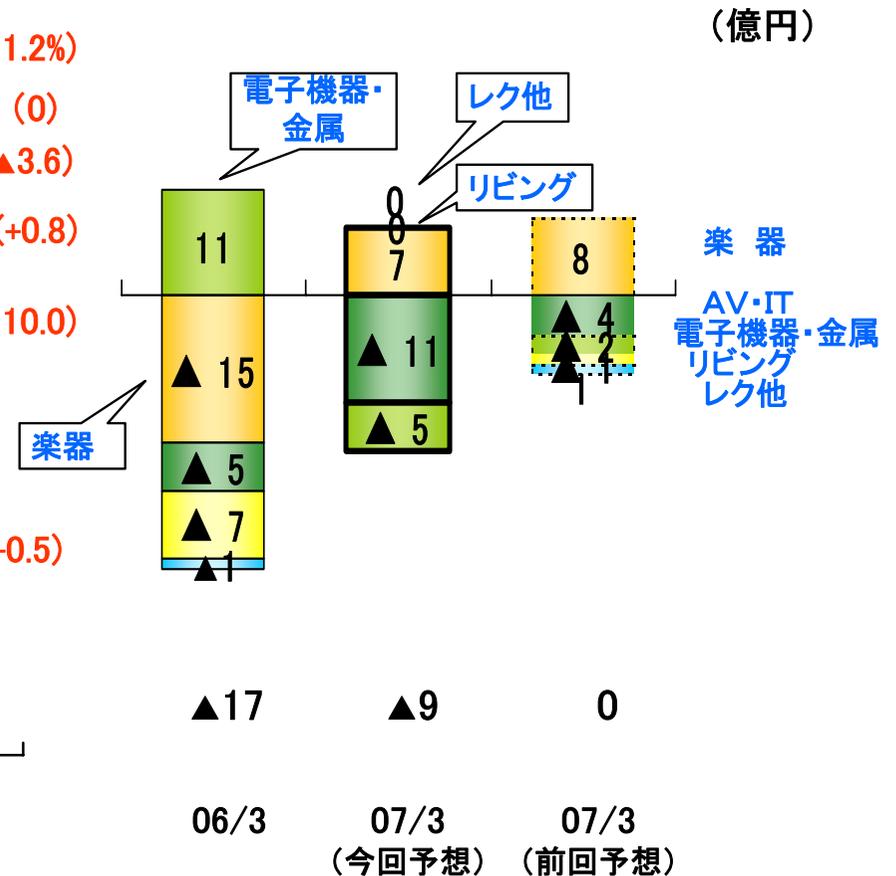
# 2007/3期 4Q事業別予想



## 売上高



## 営業利益



( )内は前年同期比  
または  
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲1億円  
(楽器▲2億円、AV・IT+1億円)  
また、前回予想との比較では+7億円  
(楽器+5億円、AV・IT+2億円)

前年同期との比較での為替影響は+7億円  
(楽器+4億円、AV・IT+3億円)  
また、前回予想との比較では+5億円  
(楽器+4億円、AV・IT+1億円)

# 2007/3期 通期業績予想



➤4Q為替レートは、US\$=115円、EUR=148円を前提（EURのみ141円→148円へ変更）

➤通期業績は前回予想に対し減収増益の計画

（億円）

（%）

	1Q~3Q 実績	4Q 予想	07/3期 (今回予想)	07/3期 (前回予想)	06/3期 実績	前回予想 変化率	前年実績 変化率
売上高	4,165	1,260	5,425	5,460	5,341	▲0.6%	+1.6%
営業利益	269 (6.5%)	▲9	260 (4.8%)	250 (4.6%)	241 (4.5%)	+4.0%	+7.9%
経常利益	385 (9.2%)	25	410 (7.6%)	380 (7.0%)	352 (6.6%)	+7.9%	+16.5%
当期利益	299 (7.2%)	6	305 (5.6%)	290 (5.3%)	281 (5.3%)	+5.2%	+8.5%

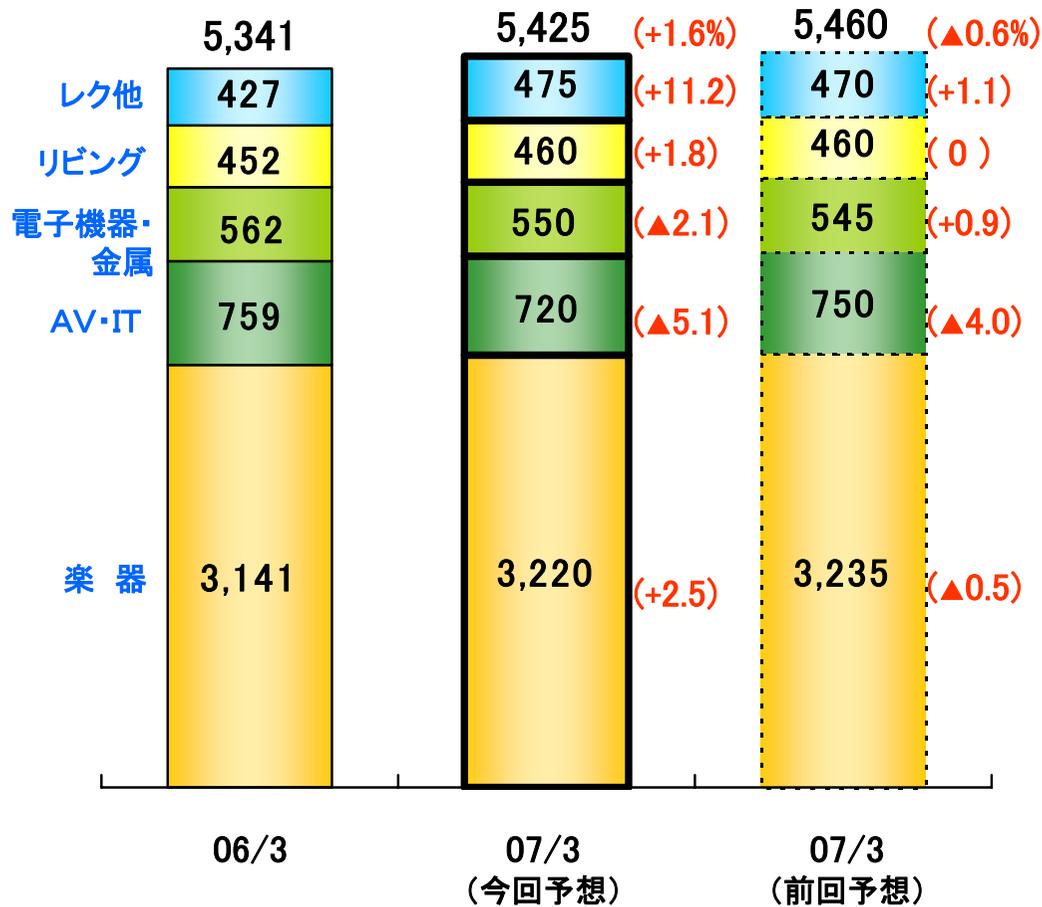
持分法損益 138 40 178 173 148

為替レート	1Q~3Q 実績	4Q 予想	07/3期 (今回予想)	07/3期 (前回予想)	06/3期 実績
売上高	US\$	116	115	116	113
	EUR	148	148	148	138
利益	US\$	116	115	116	113
	EUR	142	148	143	135

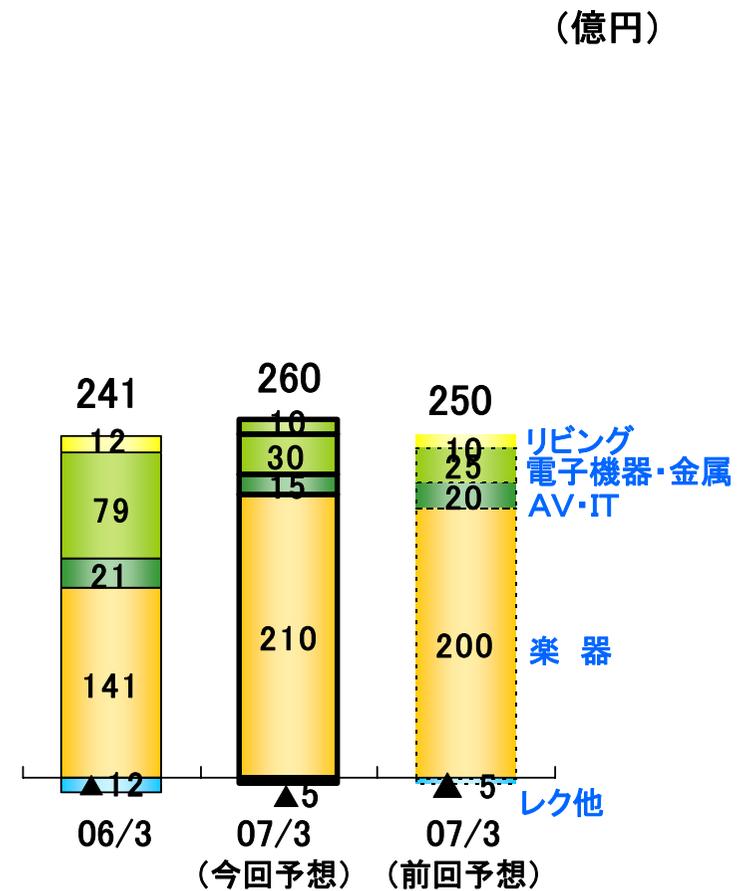
# 2007/3期 通期事業別業績予想



## 売上高



## 営業利益



( )内は前期比  
または  
前回予想比

前期との比較での為替影響は+113億円(楽器+84億円、AV・IT+28億円)  
また、前回予想との比較では+49億円(楽器+36億円、AV・IT+12億円)

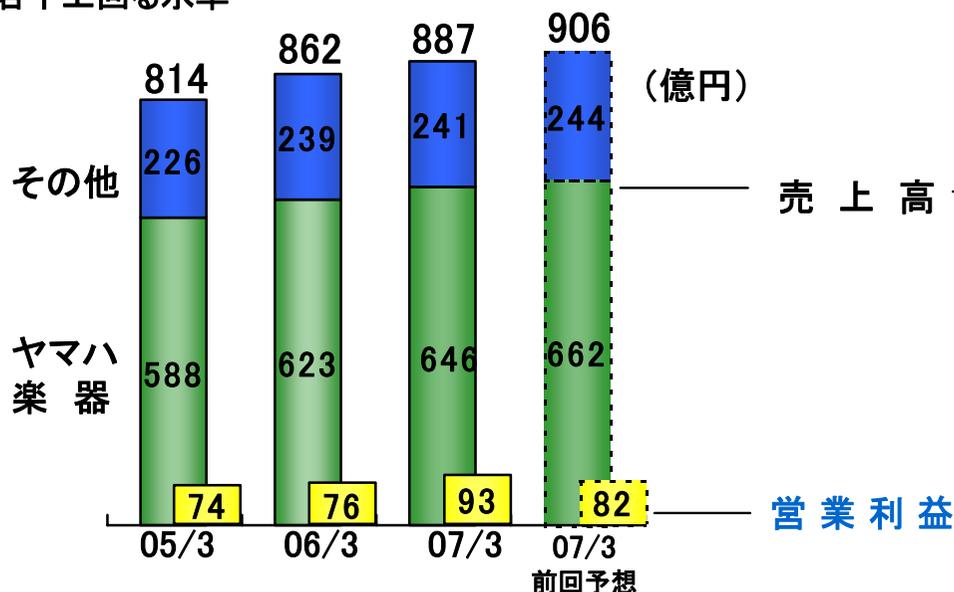
前期との比較での為替影響は+50億円(楽器+42億円、AV・IT+9億円、電子機器・金属▲1億円)  
また、前回予想との比較では+14億円(楽器+12億円、AV・IT+2億円)

# 楽器事業



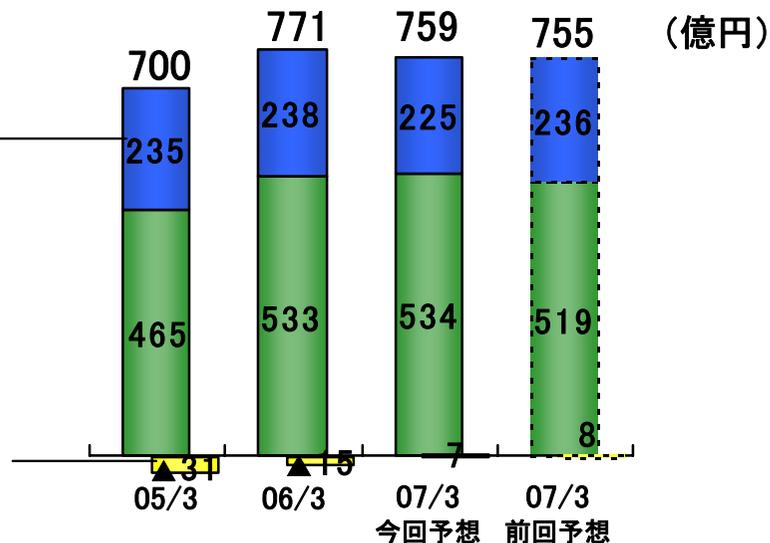
## 3Qの状況

- ・円安メリットもあり、対前年同期増収増益
- ・為替影響を除いた3Q実質売上高は、ほぼ前年同期並み。設備音響機器が欧米を中心に伸長。管楽器も予定通りの出荷
- ・前回予想との比較では実質▲5.5%の減収。アメリカ市場がピアノを中心に予想を下回る
- ・国内は、エレクトーンを除けば、ほぼ前年同期並みの売上となった
- ・韓国好調持続。中国、中南米も順調な出荷
- ・営業利益は材料価格の上昇はあるものの、為替益に加え、コスト削減効果等により、対前年同期、前回予想とも増益
- ・為替影響を除いた3Q末在庫は、売上計画未達で、前回予想を若干上回る水準



## 4Qの予想と重点施策

- ・為替影響を除いた4Q実質売上高は、前回予想並みの計画
- ・一方、営業利益は対前回予想若干の減益計画
- ・成長戦略の推進  
設備音響機器、エマージング市場  
高付加価値商品
- ・国内市場活性化施策の推進(音楽教室生徒募集に注力)
- ・杭州、インドネシアでの増産対応強化
- ・解散を決定した高雄、アメリカ2工場でのスムーズな生産終了

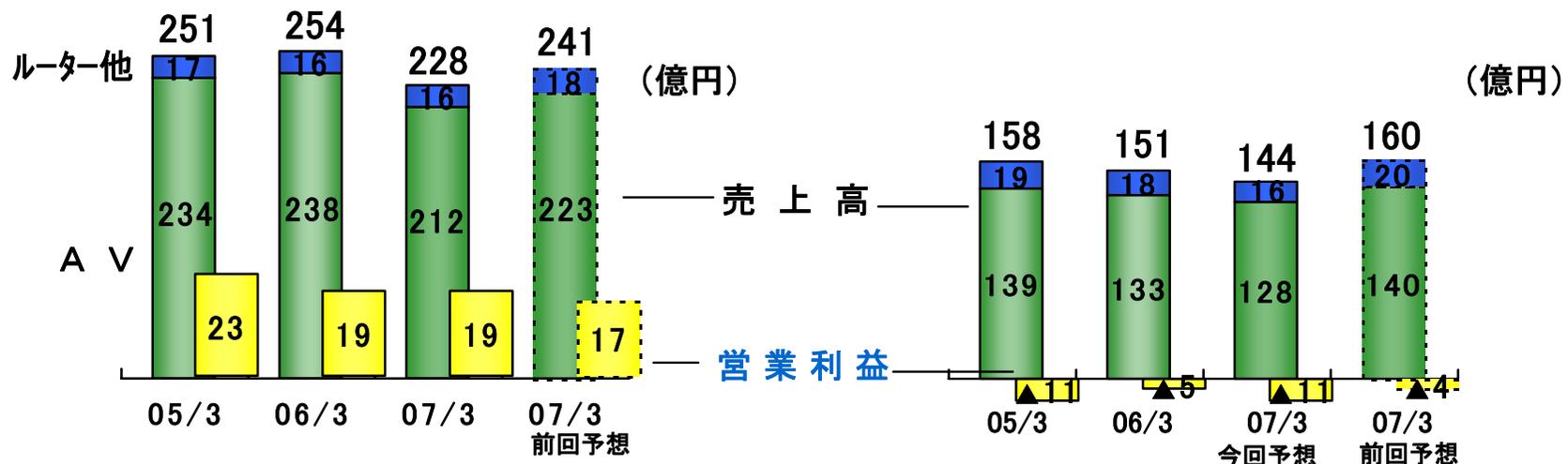


## 3Qの状況

- ・ 対前年同期減収営業微減益
- ・ 3Q実質売上高は、前年同期比▲14.6%の減収（前回予想との比較でも▲10%の減収）
- ・ 年末商戦は欧州で前年並みとなったが、北米は前年を下回った。国内は引続き低調。通信カラオケは対前年同期大幅減
- ・ 期待の「YSP」は、第3四半期（4月～12月）までで、前年同期比38%増の54億円（76,500台）の販売
- ・ 営業利益は、円安に伴う為替益の発生もあり、対前年同期では、若干の減益。前回予想に対しては増益
- ・ 3Q末在庫は、前年同期、前回予想に対し増加

## 4Qの予想と重点施策

- ・ 4Q売上高、利益とも、前回予想を下方修正
- ・ 春の需要期に向けてAV新商品のスムーズな市場導入
- ・ 「YSP」拡販
- ・ 2ch Hifiビジネス強化
- ・ 通信カラオケは次期モデル商品開発の推進
- ・ 会議システム認知度向上と販路開拓



# 電子機器・金属事業

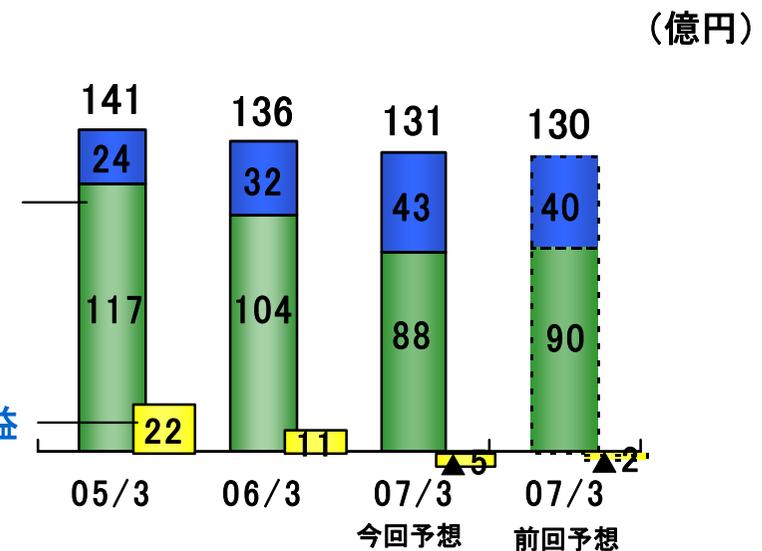
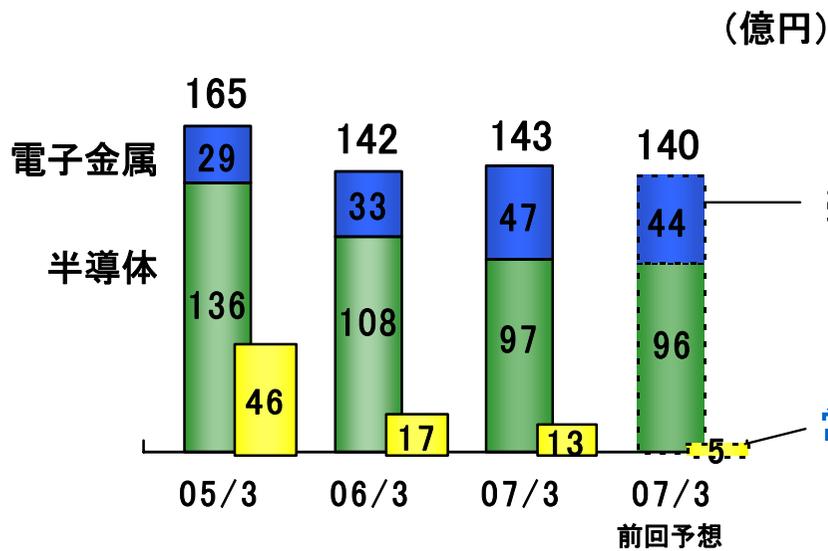


## 3Qの状況

- ・ 対前年同期増収減益、前回予想に対しては増収増益
- ・ 半導体は、携帯電話用音源LSIの需要減に伴い対前年同期減収となり、営業利益半減
- ・ 電子金属は材料価格上昇に伴う価格転嫁により、対前年同期大幅増収

## 4Qの予想と重点施策

- ・ 4Q営業利益を下方修正
- ・ 携帯電話用音源LSIは、単価下落継続。高機能商品の拡販でシェア維持を目指す
- ・ アミューズメント、デジタルアンプ、車載画像LSI拡販
- ・ 新デバイスの開発と顧客開拓
- ・ 電子金属は半導体関連の受注減少が懸念材料。製造原価低減と歩留り改善により、収益確保を図る

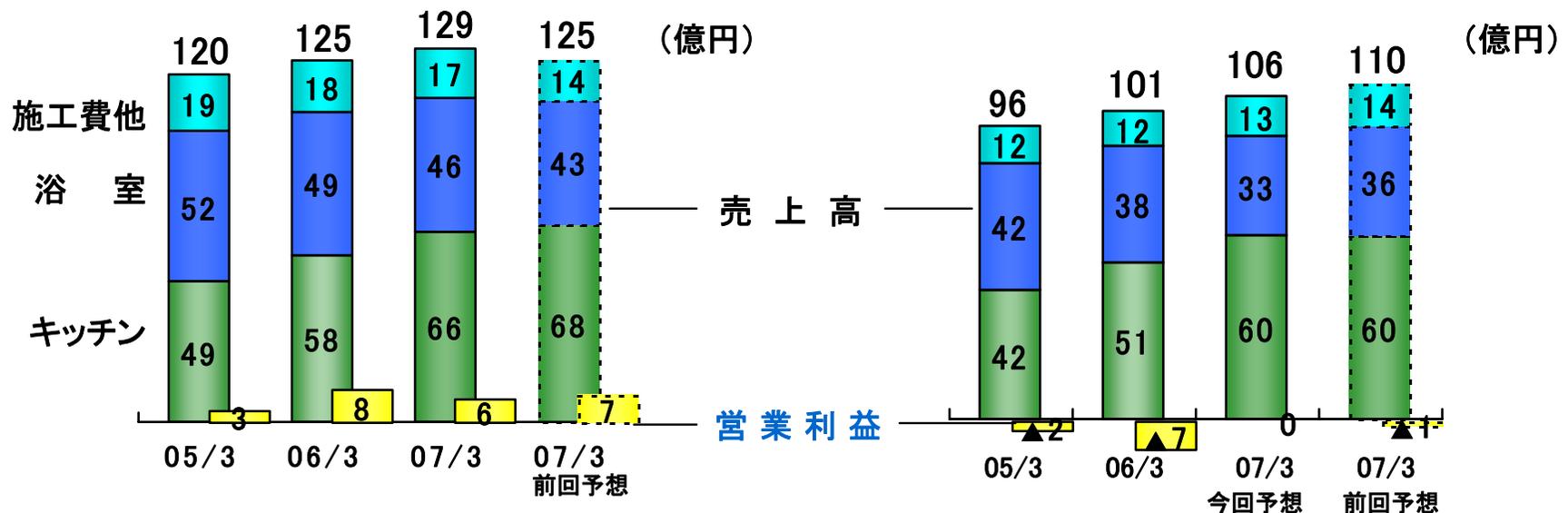


## 3Qの状況

- ・ 対前年同期、前回予想とも増収減益
- ・ システムキッチンにはマーブル戦略奏功し、引続き好調維持。浴室は価格競争激化に伴いシェア低下
- ・ チャネル別には、ホームビルダー、ハウスメーカー向け順調。リフォーム伸び悩み
- ・ 営業利益は、浴室単価ダウンに伴う売上総利益の低下に加え、樹脂などの原材料価格の上昇により対前年同期、前回予想とも減益

## 4Qの予想と重点施策

- ・ 4Qは、対前回予想減収微増益の計画
- ・ 競争力あるシステムキッチン拡販
- ・ ショールーム機能拡充とリフォームビジネス戦略強化
- ・ 製造改革の一層の推進によるコスト競争力の強化

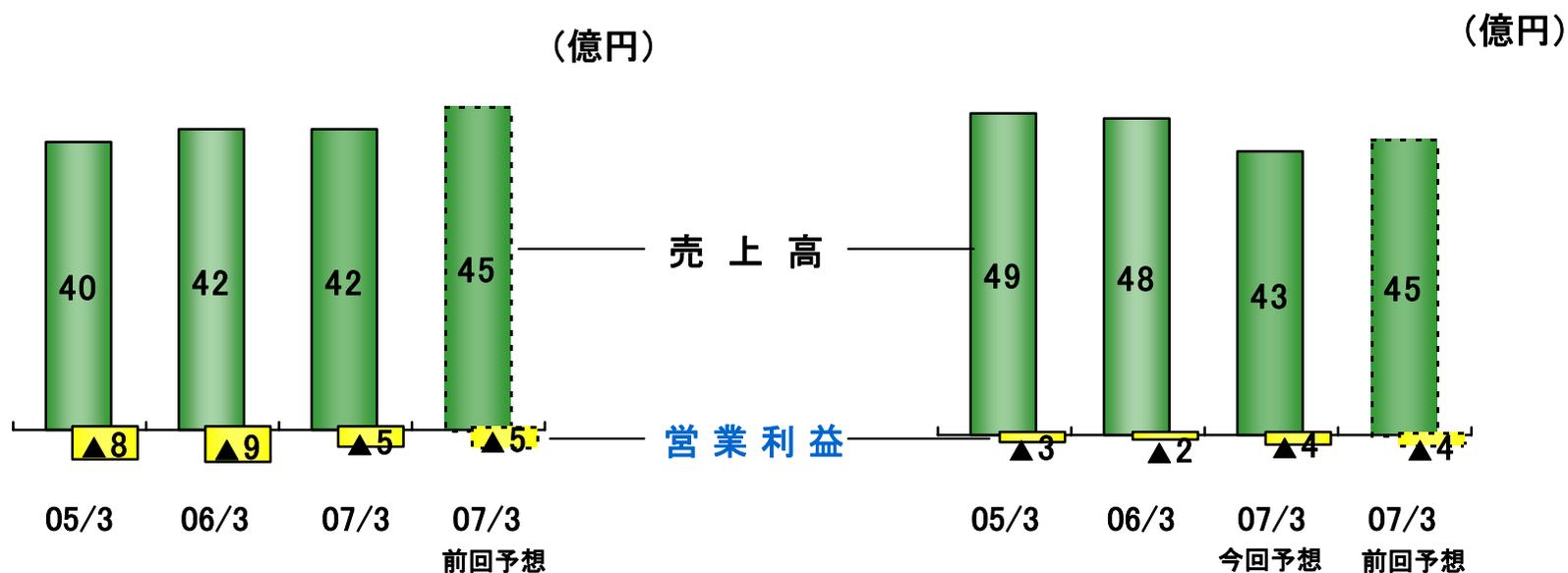


## 3Qの状況

- ・ 3Q売上高はほぼ前年同期並み。前回予想に対しては減収
- ・ 営業利益は、減価償却費の減少に加え、前年に実施した「キロロ」ゲレンデ改修工事による費用がなくなったことにより4億円の対前年同期損益改善

## 4Qの予想と重点施策

- ・ 4Q売上高は対前回予想減収計画。利益は据置
- ・ スキー場「キロロ」の集客が最大のテーマ
- ・ 各施設とも、特色を活かした集客数の確保と一層の営業効率向上により収益改善を目指す

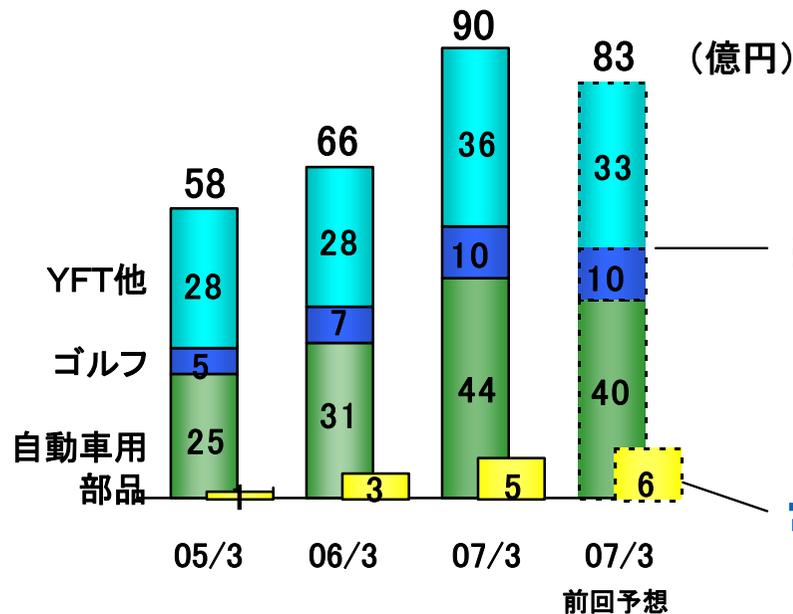


# その他事業



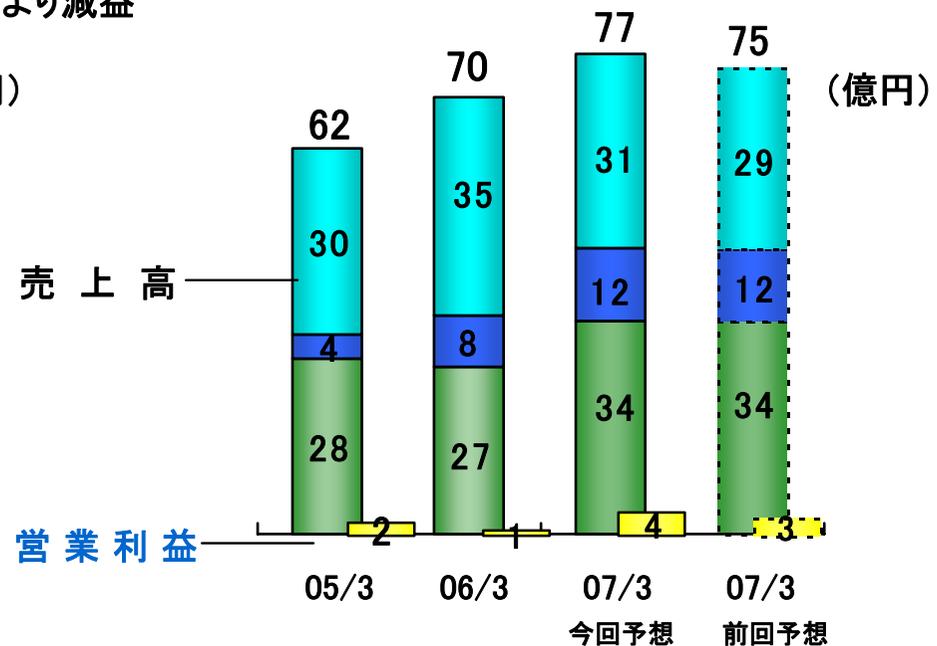
## 3Qの状況

- ・ セグメント全体では、対前年同期、前回予想とも増収
- ・ 自動車用内装部品は、遅れていた新モデルの生産本格化し、対前年同期、前回予想とも増収
- ・ 部品・金型事業は携帯電話用Mg部品及びゲーム機用プラスチック部品とも増産
- ・ 営業利益は部品・金型、ゴルフとも対前年同期増益。一方、自動車用内装部品は歩留り改善遅れにより減益



## 4Qの予想と重点施策

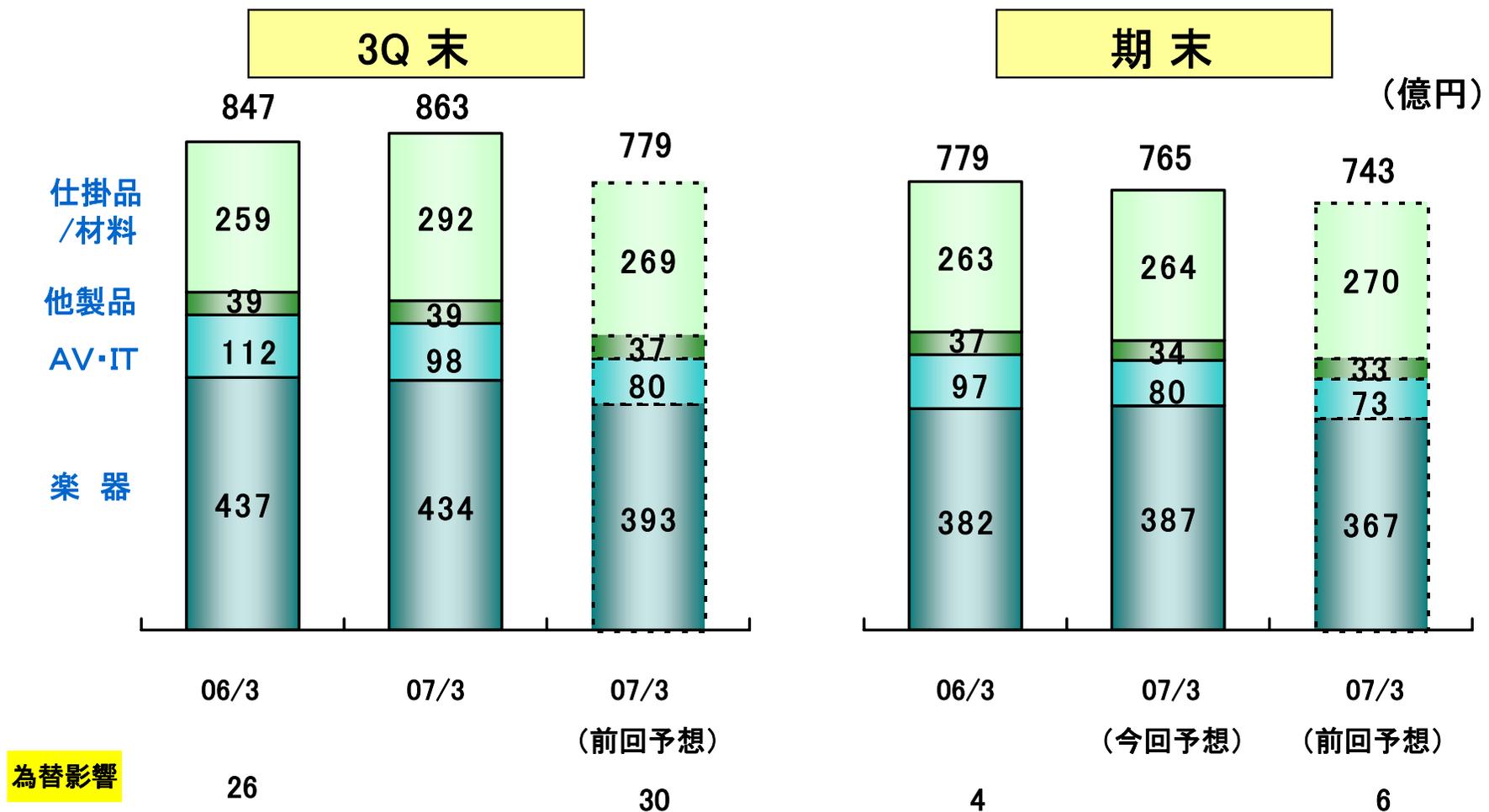
- ・ 4Q売上高は、前年同期、前回予想を上回る計画。Mg部品は生産大幅増
- ・ Mg部品、自動車用内装部品とも、フレキシブルな生産対応と製造原価の低減、歩留り向上が課題



# 棚卸資産



- ▶ 為替影響を除いた3Q末総在庫は対前年同期10億円の減少。(完成品在庫は39億円の減少)
- ▶ 前回予想に対しては、売上未達と仕掛品、材料等の増加で実質44億円の増加



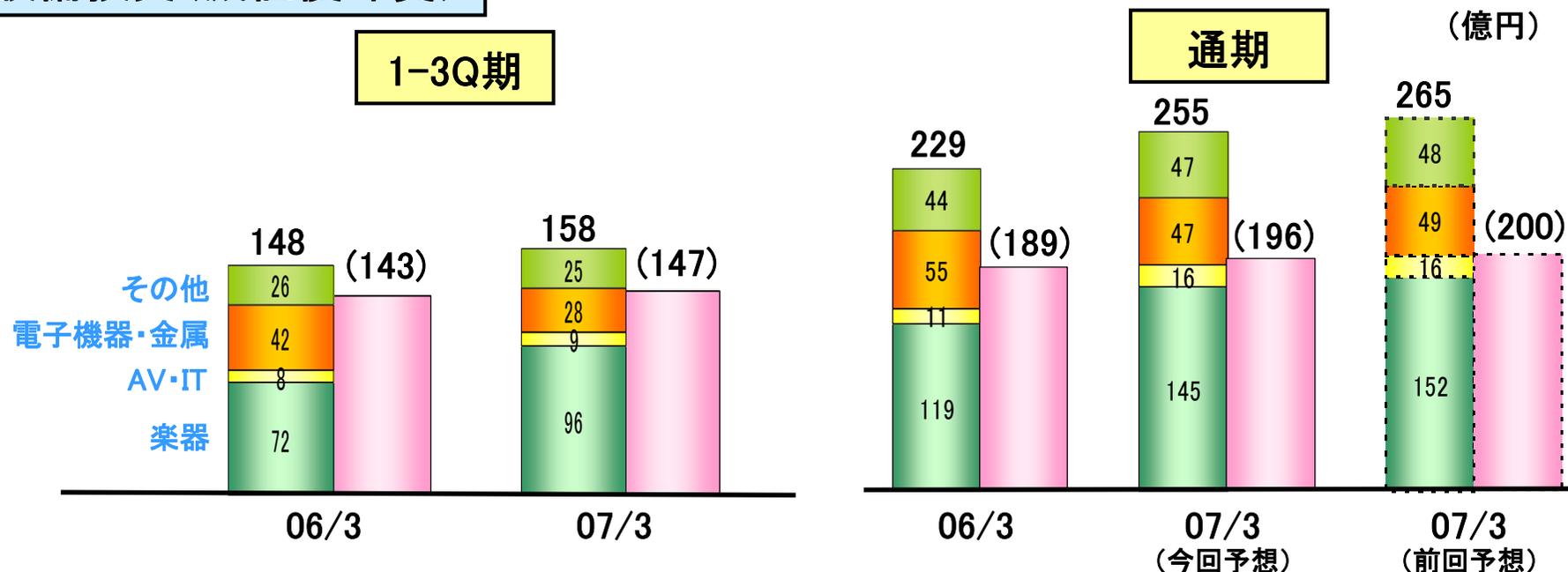


# 付属資料

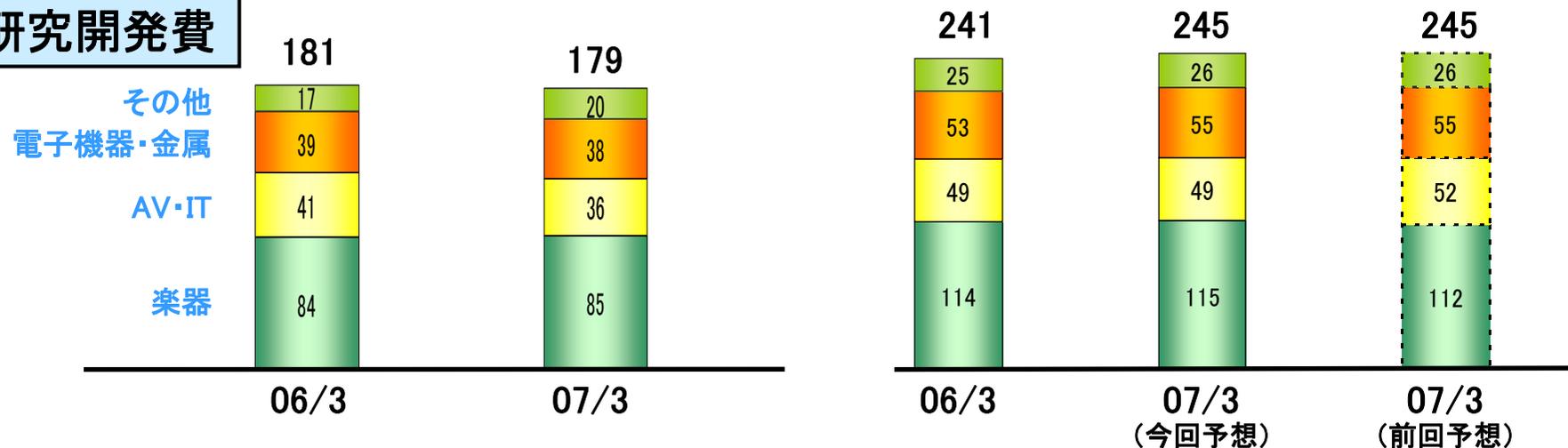
# 設備投資・減価償却費/研究開発費



## 設備投資(減価償却費)



## 研究開発費

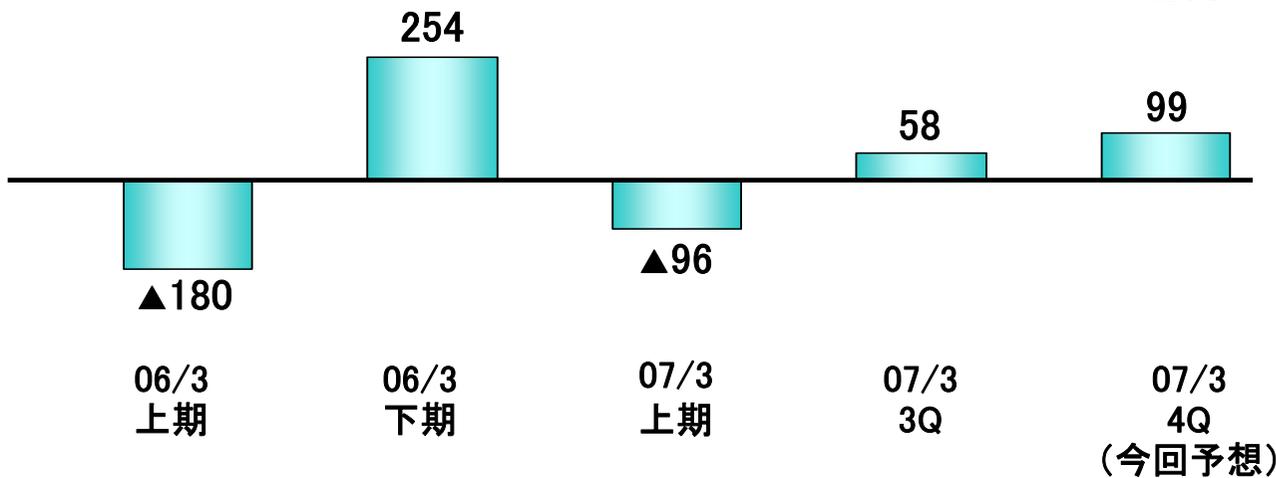


# 実質有利子負債



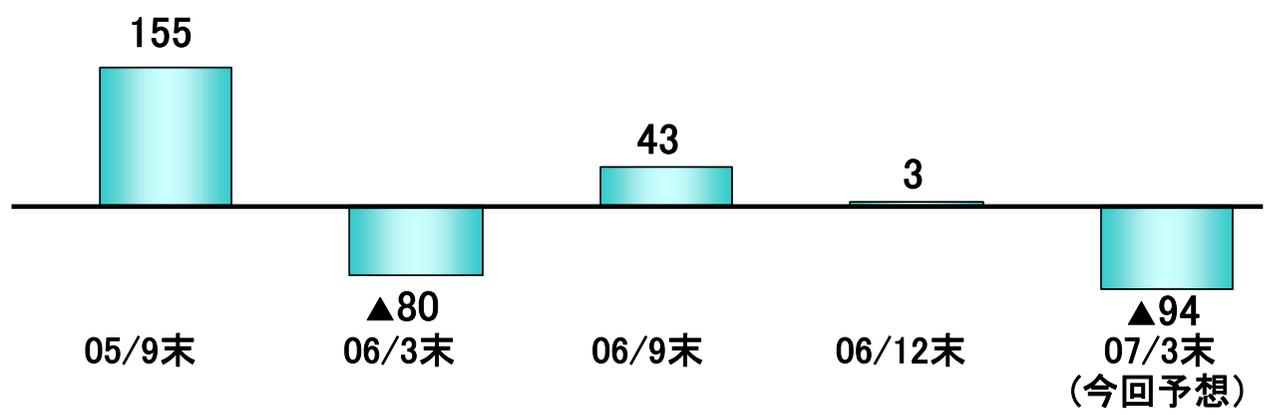
(億円)

フリーキャッシュフロー



実質有利子負債

長短借入金 — 現預金



\* 上記の他に

リゾート預託金残高

05/9末	280	06/3末	276	06/9末	270	06/12末	268	07/3末 (今回予想)	265
-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------	-----	--------------	-----

# 予想貸借対照表



(億円)

	3Q末			期末		
	05/12末	06/12末	増減	06/3末	07/3末	増減
現預金	300	349	49	364	345	▲19
売上債権	886	898	12	703	760	57
棚卸資産	847	863	16	779	765	▲14
他流動資産	249	266	17	248	239	▲9
固定資産	3,033	3,237	204	3,106	3,301	195
<b>資産計</b>	<b>5,315</b>	<b>5,613</b>	<b>298</b>	<b>5,200</b>	<b>5,410</b>	<b>210</b>
仕入債務	404	425	21	372	375	3
借入金	436	352	▲84	285	251	▲34
他負債	1,276	1,314	38	1,338	1,310	▲28
純資産計	3,199	3,522	323	3,205	3,474	269
<b>負債純資産計</b>	<b>5,315</b>	<b>5,613</b>	<b>298</b>	<b>5,200</b>	<b>5,410</b>	<b>210</b>

# 2007/3期 3Q営業外損益、特別損益



	06/3(3Q)実績	07/3(3Q)実績	07/3 (3Q)前回予想
			(億円)
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	39	36	34
金融収支	▲ 1	▲ 1	▲ 2
その他	▲ 11	▲ 10	▲ 13
計	+ 27	+ 25	+ 19
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲ 2	0	▲ 2
その他	1	▲ 1	▲ 2
計	▲ 1	▲ 1	▲ 4
<b>法人税他</b>			
法人税等	31	29	36
少数株主持分	1	2	1
計	32	31	37

# 2007/3期 通期営業外損益、特別損益

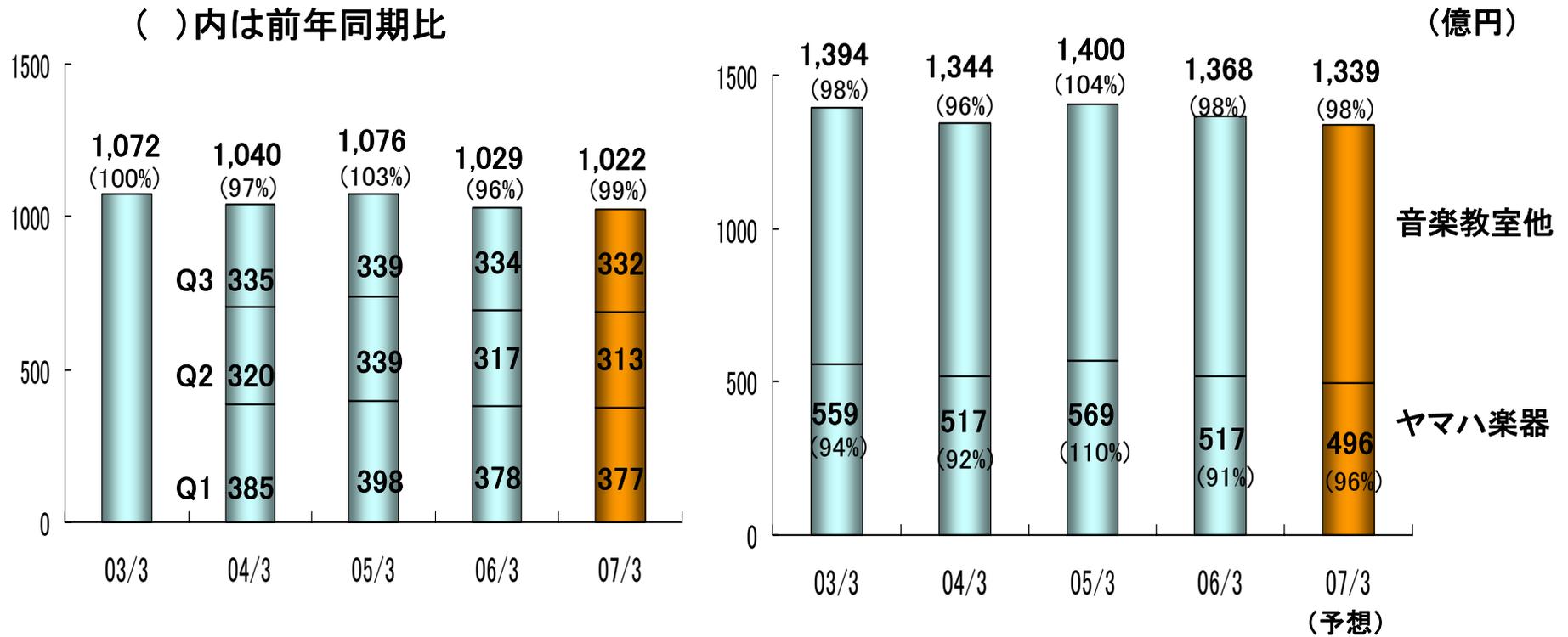


	06/3実績	07/3今回予想	07/3前回予想
(億円)			
<b>営業外損益</b>			
持分法利益	148	178	173
金融収支	▲ 2	▲ 1	▲ 2
その他	▲35	▲27	▲41
計	+ 111	+ 150	+130
<b>特別損益</b>			
固定資産処分損益	▲2	▲ 9	▲ 6
その他	8	▲31	▲14
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・投資有価証券損益 6</li> <li>・高雄ヤマハ解散 ▲16</li> <li>・北米工場解散 ▲13</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高雄ヤマハ解散費用 ▲17</li> </ul>
計	+ 6	▲40	▲20
<b>法人税他</b>			
法人税等	72	59	65
少数株主持分	5	6	5
計	77	65	70

# 日本市場のヤマハ楽器販売状況



減少傾向が続くエレクトーンを除けば、3Qまでの累計売上高はほぼ前年同期並み。年末から、デジタルピアノにシェア拡大の傾向が見られる。



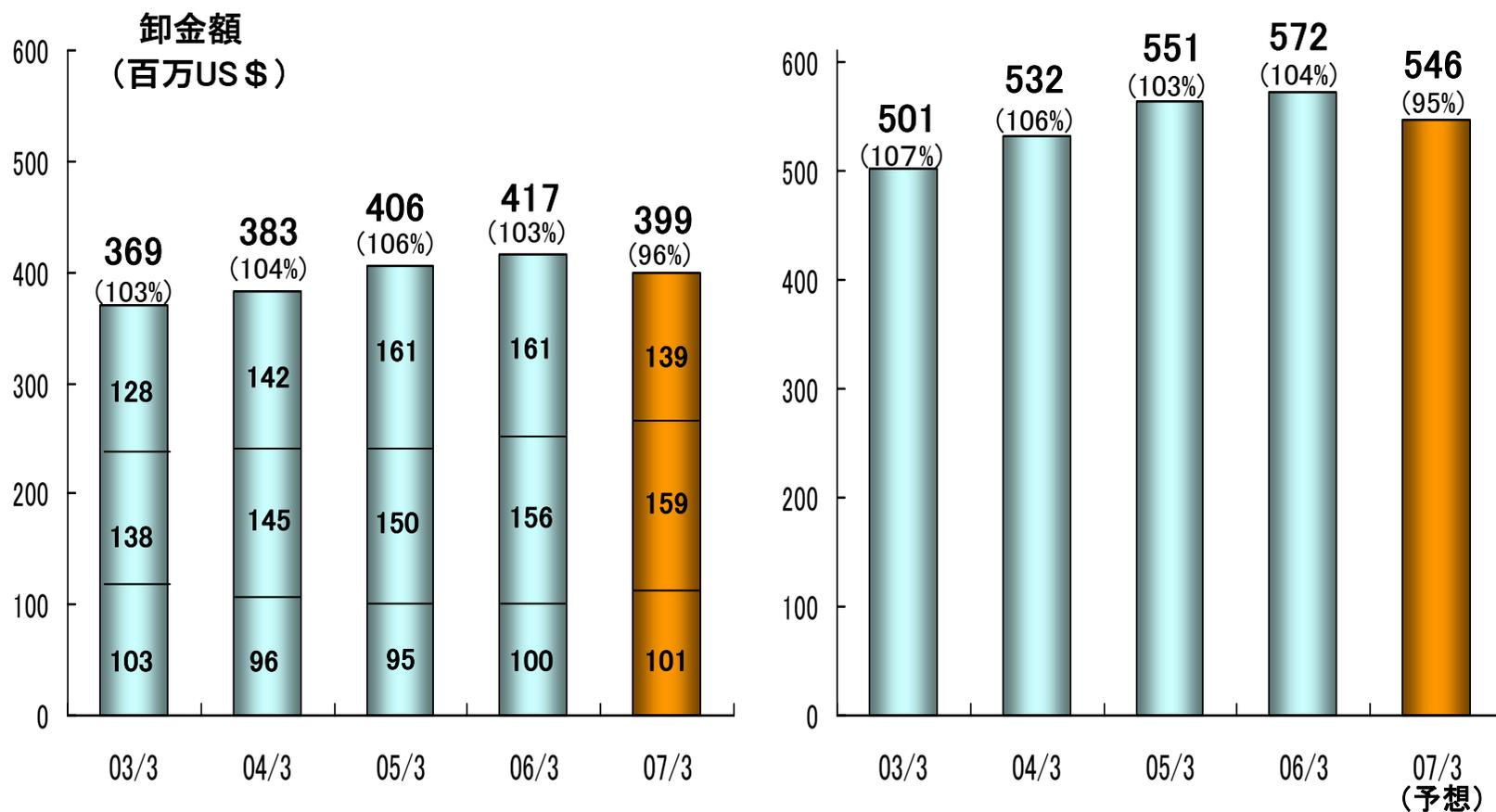
1~3Q 実績

通期 ベース

# アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



対前年同期比96%と苦戦。12月前半からクリスマスまでの小売が伸びず、特にピアノは輸入統計(1~10月)で約25%減。一方、設備音響機器と管楽器は堅調に推移。通期売上高は、前年実績を下回る見込み。



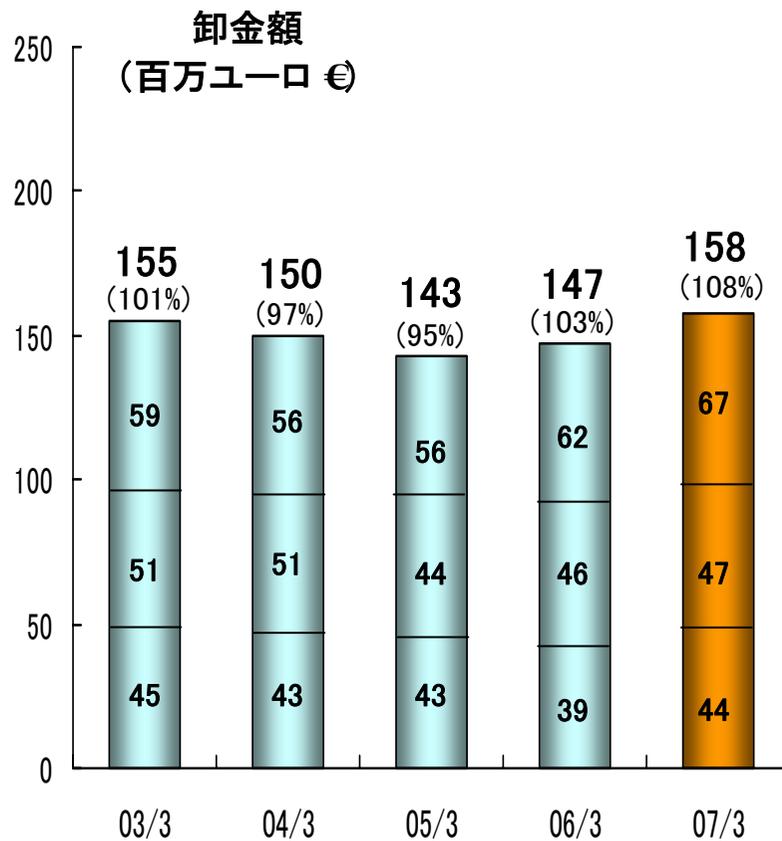
1~3Q 実績

通期ベース

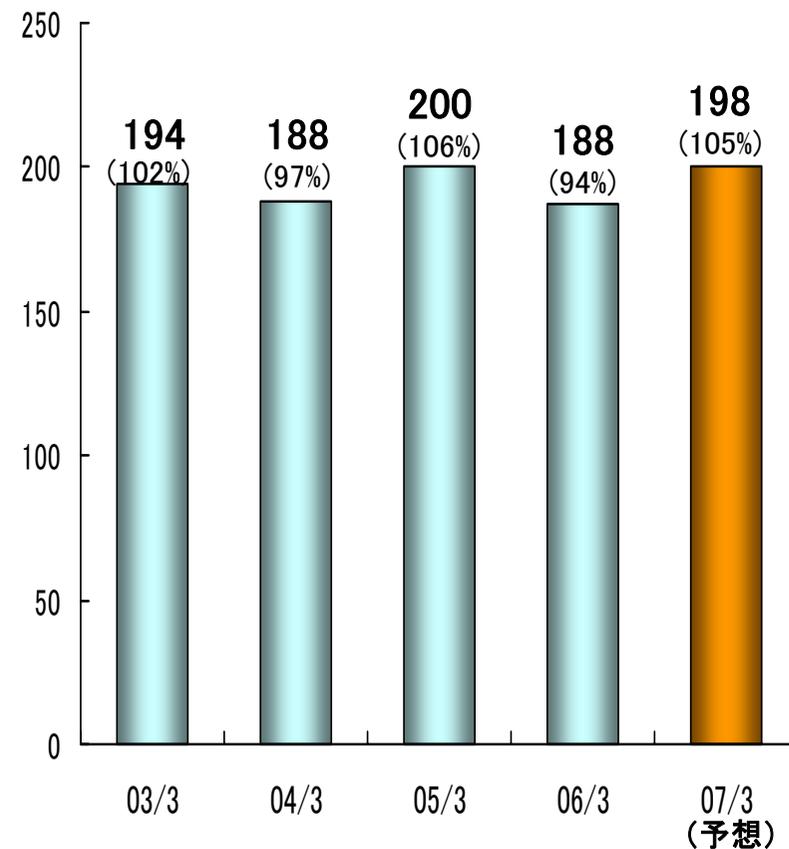
# ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



欧州の景気回復を背景に、前年同期比108%と好調(ドイツ国内103%、東欧127%)。  
特にピアノ、電子ピアノ、設備音響機器出荷順調。



1~3Q 実績

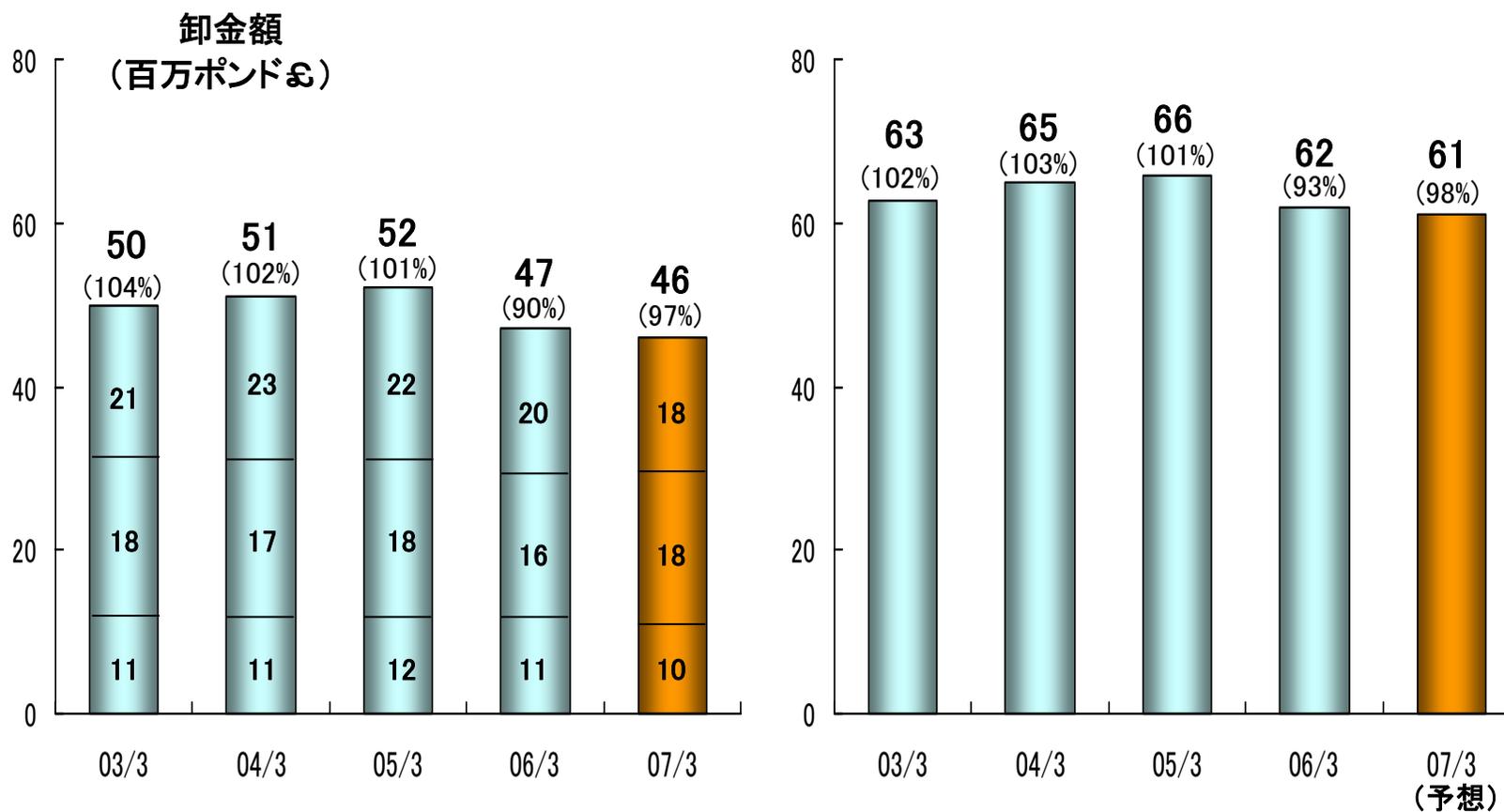


通期ベース

# イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



クリスマス商戦が全般的にスローとなり、楽器全般の売上が厳しく価格競争が激化する中、デジタルミキサーLS9を始めとするPA機器が堅調に推移。前年同期比では97%。



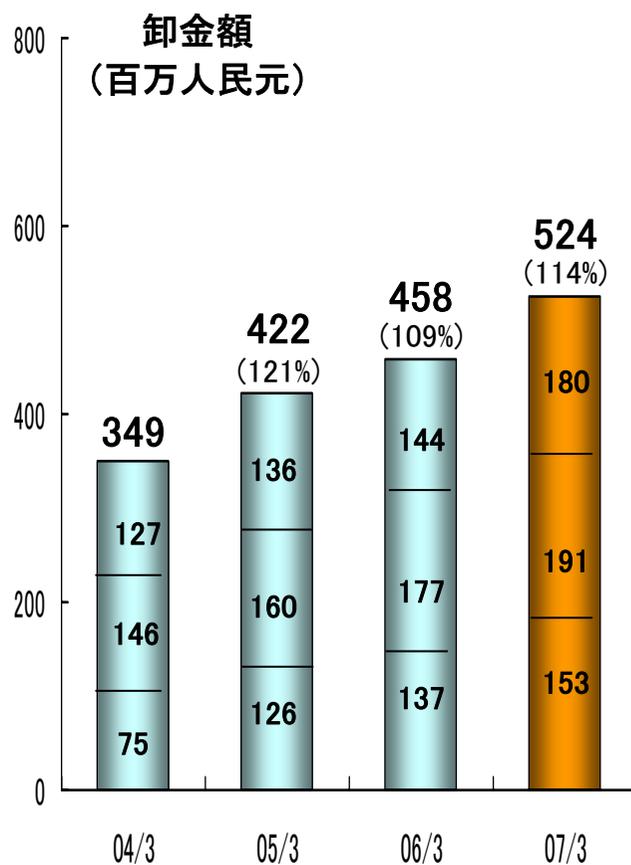
1~3Q 実績

通期ベース

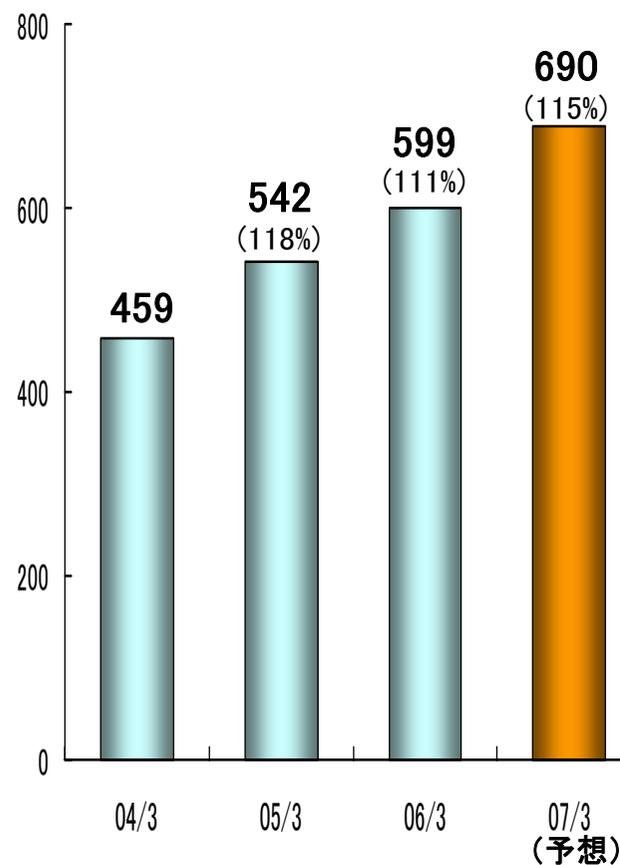
# 中国市場のヤマハ楽器販売状況



ピアノは大型の学校入札もあり、杭州製UP、輸入UP/GPともに順調な出荷。  
設備音響機器もデジタルミキサーを放送局(TV、ラジオ局)、PA会社に販売して好調。  
通期では引続き2桁成長が見込まれる。



1~3Q 実績



通期 ベース

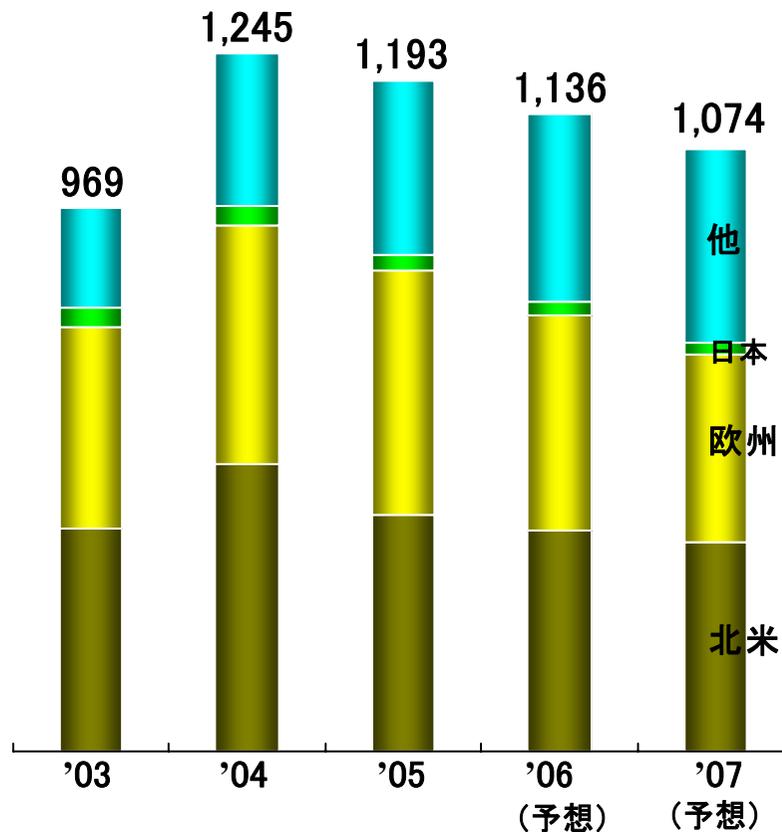
# ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム+アンプ・レシーバー)



## <ホームシアターシステム>

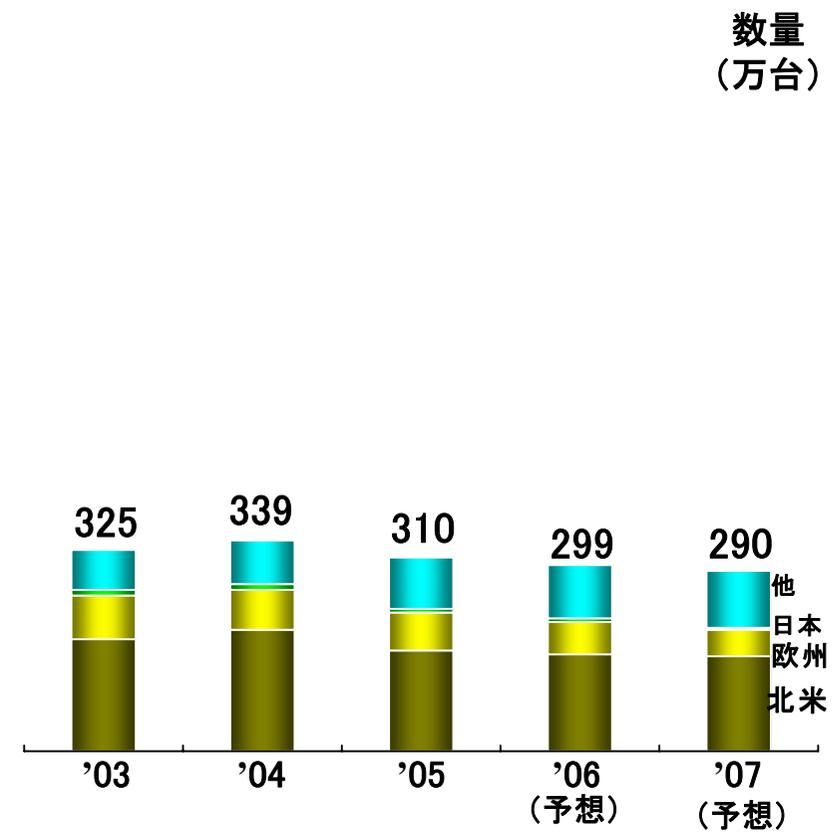
- ・市場規模は欧米中心に減少傾向 (07年予想1,100万台)
- ・北米: HTiBが年率10%超の減少
- ・欧州: 市場の9割を占めるDVD内蔵型が10%超の減少見通し
- ・日本: 05年より約8%の減少で推移(07年予想24万台)
- ・その他: 引き続きアジア、中・東欧市場で成長



04年以後の北米、06年以後の日本・欧州市場規模修正

## <AVアンプ・レシーバー>

- ・全世界では年率約3~4%で市場縮小
- ・欧米: 市場は縮小傾向
- ・日本: 06年は対前年30%減少見通し
- ・アジア、中国、東欧、ロシアで低価格品中心に市場拡大

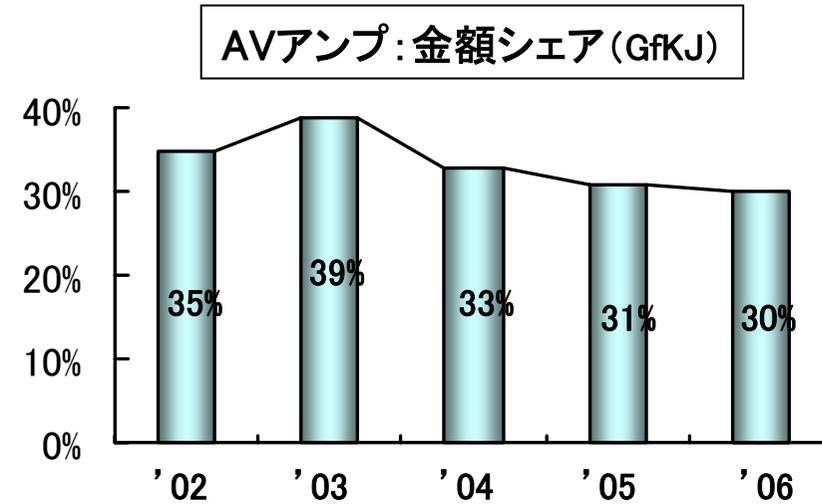
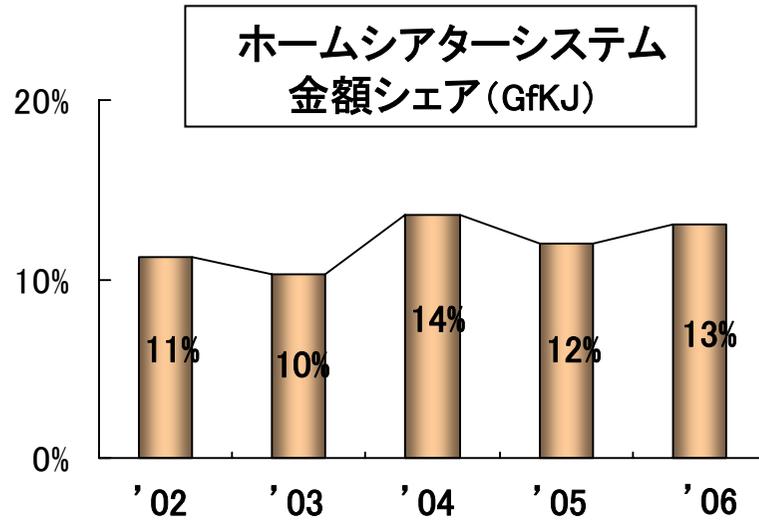


04年以後の北米、06年以後の日本・欧州市場規模修正

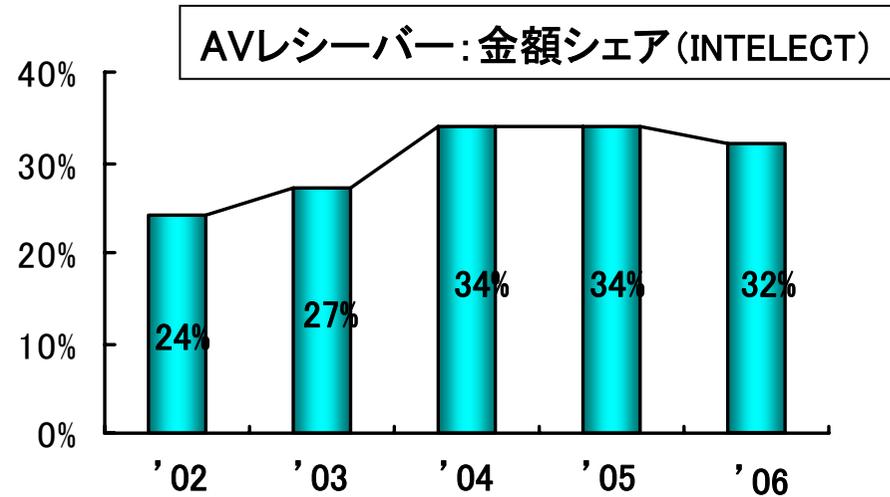
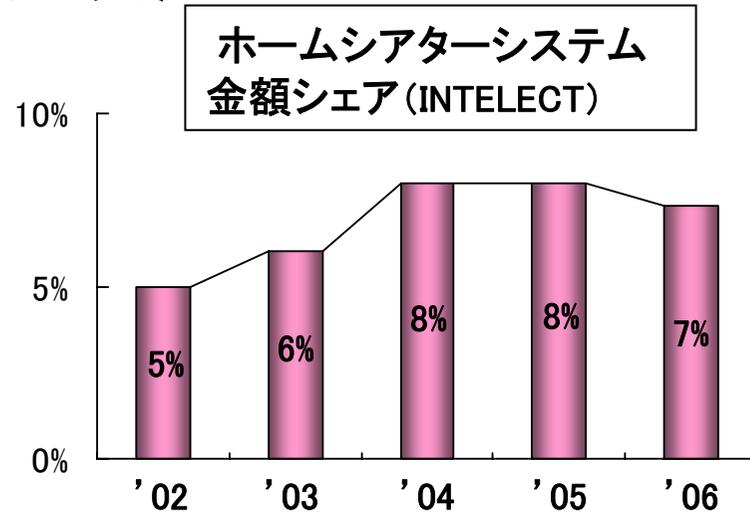
# AV マーケットシェア



〈日本〉



〈アメリカ〉



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。